

早川たかしの新型コロナ対策提言 第4弾

遊びは子どもの”いのち”そのもの①

遊ぶ子どもは”幸せ”や”希望”をはこぶ ②

呼びかけ

①遊ぶことは子どもの”生命””存在”そのもの

富山大学で約20年間「人権と福祉」という講座の講師をしていました。ある男子学生（O/H君 18歳）が「僕は遊びで命を救われた」という題のレポートを書いてくれました。私は衝撃的なテーマに驚き、一気に目を通しました。内容はこうです。

私が小学校5年生の頃、我が家は非常に貧しい生活をしていました。消費者金融に多額の借金がありました。ある日の夜、私と姉は母から呼ばれ居間に行きました。そこでは父がテーブルに上がって首つり縄を天井に取り付けていました。母は私たちに「みんなで死のう。楽になろう」と泣きながら言いました。母と向き合った状態で、私は咄嗟に「明日はしょうこちゃんと遊ぶ約束があるし、だいち君とまだ遊びたいから死ねない」と言いました。母は泣きながら私を抱きしめました。父は手を止めました。みんな泣き出し、一家心中はギリギリのところまで止まりました。ポケモンカードが流行っている時代でした。記憶は曖昧なところもありますが、これは実際にあったことです。もし、この時期に私が「遊び」をしていなかったら、死んでいたでしょう。そこに友だちがいて、大好きな遊びがあって、それで死ねないと思ったのです。子どもたちの「明日も遊びたい」という気持ちはとても大切で、彼らの人生に大きな影響を与えとはっきり言えます。

O・H君は勿論私の「遊び力&子ども力」についての講義を受講し、「講義で皿回しをして遊んで、懐かしい子ども時代の遊び感覚取り戻しました」と冒頭に書いています。この遊びの洗礼を受けた後すぐに書いたレポートです。私は、死に対峙した彼が訴えたかったのは、「遊びは大切」（「遊びは子どもの「発達」を促すために必要なもの、乃至は「社会性」を培うための大切な体験」といった心理学的・教育学的見識ではないと思うのです。言いたかったのは、子どもが「遊ぶこと」は、「いま、生きていることができる」ことであり、「子どもという存在」そのものなんだということだろうと思うのです。彼にとって「遊ばなくなる」=「死」だったのでしょうか。

私も含め保育や教育に関わる良心的人たちが、考えてきたことは、「遊び」は子どもの成長に関わる「手段」や大人になるための「階段」として「大切」といった考えの「範疇」でしかかかったのではないかと思うのです。しかし、このレポートの内容はその浅学非才さ凌駕していると思います。

「知」を得るための「学習」や「勉強」を否定するものではありません。しかし、こんなコロナの時にすら、多くの大人たちは「学校」がだめなら、「インターネット」で「学習」をと狂奔する。こんな「命」が問われるときだからこそ、「遊び」こそ子どもには必要だ！とその方策を考え、遊びを保証するためにこそ狂奔すべきなのです。しかし、そんな大人はいません。悲しいことです。

② 遊ぶ子どもは”幸せ””希望”をはこぶ

こんなことがありました。不登校の中一のA君を遊ばせ隊の事務所で預かっていたことです。私の講演の助手やおもちゃ作りの手伝いをやってもらっていました。A君が不登校になってからお父さんの態度が変わりました。単身赴任先から帰るとA君を問い詰め、無反応なA君にぐんに次第に暴力を振るうようなりました。A君は耐えながら事務所に通っていました。A君に「サソリの標本」というイタズラ遊びのおもちゃを製作してもらったことになりました。一日に30~40匹作ります。ある日、A君は「サソリ一つもらっていいですか」といったので、「いいよ一つくらい」とあげることにしました。彼には目論見がありました。この日はお父さんが帰る日でした。彼は、お父さんが帰る時刻を見計らって、台所のテーブルの上にさりげなく「サソリの標本」を置いておきました。2階の部屋から、父がサソリに引っかけた驚いて笑ってくれるか、ドキドキしながら聞き耳を立てていました。お母さんも弟もこの計画に参加し、お父さんがてに取るようにことばがけの手伝いもしてくれました。見事にお父さんはサソリを開け、大きな声で「ウオー」と叫びました。そして、お父さんは5円玉を見て大笑い。「誰だ、こんなイタズラを仕掛けたヤツは？」と。家族中で笑いました。後でA君はこのイタズラで家が笑うことがなかったら、家出をする覚悟だったと私に告白しました。この賭けは成功しました。こんなイタズラで家族がまた一つになりました。そして、これまでお父さんから振るわれた「暴力」を許しました。（元々お父さんは、子煩悩で優しい人だったとのこと 母の弁）

そして、提案

① 子どもの”イタズラ”や”けんか”を認めて、大人も一緒に楽しもう

※一緒にいるのだから諍い（いさかい）があっても当然。

② 落語を聴いて、映画を見て 一緒に泣いて笑いながら、幸せを

※落語には人と人の「関係」や人の「個性」や社会の構造の「謎解き」がいっぱい。

やっぱり 入り口は「皿回し」から・・・